

兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2017 Autumn-Winter



松帆銅鐸 (所蔵・写真提供 南あわじ市)

平成29年秋冬号

■特別展「青銅の鐸と武器」	2
◆展覧会「三彩の俑たち」	4
◆企画展「ひょうごの遺跡2009～2018」	5
◆ふるさと発掘展「A・SA・GOのカントリーロード」	6
◆「赤米で田んぼアート」ー古代体験講座 赤米をつくろうー	7

兵庫県政150周年記念先行事業・開館10周年記念特別展

青銅の鐸と武器 —弥生時代の交流—

期間：平成29年10月7日(土)～11月26日(日)

兵庫県立考古博物館では開館10周年を迎えるにあたり、「交流」をキーワードに特別展を企画します。

秋の特別展では淡路島で発見された松帆銅鐸を出発点に、弥生時代のマツリの道具である銅鐸と武器形青銅器からみた交流を考えます。松帆銅鐸とその同範銅鐸や铸造関係資料から、弥生時代の交流に迫ります。

(1) 松帆銅鐸発見！

平成27年4月、南あわじ市の石材製造販売会社資材置き場の砂山から複数の銅鐸が見つかりました。

多数の銅鐸が一緒に見つかるのは今回の展覧会でも展示している平成19年に発見された長野県中野市柳沢遺跡以来のことでした。

松帆銅鐸とよばれるようになるこれらの銅鐸群は銅鐸7点からなり、大きな銅鐸の中に小さな銅鐸を入れ子で納め、7本の青銅製の舌を伴っていました。

その後の調査で松帆銅鐸と同じ鋳型からつくられた銅鐸(同範鐸)が、島根県にもあることが判りました。さらに舌や銅鐸をつるしたと考えられる植物繊維が付着しており、その放射性炭素年代を測定することで、銅鐸が埋められた年代が明らかになりました。

(2) 弥生青銅器の島—淡路

淡路島では松帆銅鐸が発見される前から、数多くの青銅器が出土していました。最も古い時期の銅鐸である中川原銅鐸、松帆2・4号鐸と同範鐸であることが判明し、それまでは舌を伴う数少ない銅鐸の一つであった慶野中の御堂銅鐸、絵画が鋳出された慶野銅鐸をはじめ、島内で出土したことが伝えられる流水文銅鐸(本興寺銅鐸)等があります。また、南あわじ市内では古津路地区で銅剣14本が出土しているほか、幡多遺跡では複数の銅戈が破碎された状態で埋められており、銅鐸と武器形青銅器が近接した位置で集中して埋納されていたことが判ってきました。



古津路銅剣(国立歴史民俗博物館蔵・当館蔵)

(3) 銅鐸と武器形青銅器

銅鐸の埋納にはいくつかの類型があります。島根県荒神谷遺跡では大量に埋納された銅剣の隣接地点で複数の銅鐸と銅矛と一緒に埋められていました。複数の銅鐸と武器形青銅器が同じ場所に埋められた例としては神戸市桜ヶ丘遺跡の銅鐸・銅戈群、柳沢遺跡の銅鐸・銅戈群などが挙げられます。柳沢遺跡の銅戈には九州系のものと近畿系のものの双方が含まれ、複数ルートでの交流が考えられます。また、松帆銅鐸や島根県加茂岩倉遺跡のように銅鐸だけが大量に埋められた例もありますが、多くの場合、銅鐸単独で埋められています。その中には加古川市望塚銅鐸のように集落からは少し離れた場所に埋められる例や、神戸市北青木銅鐸のように集落の中に埋められる例があります。

こうした種類の持つ意味については、いくつもの解釈があり、なかなか決着がつきそうにはありません。松帆銅鐸についても、埋められた時期や意味をめぐって議論が始まったところです。

同範関係の点でも荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡に松帆銅鐸の同範鐸が含まれています。さらに荒神谷遺跡の同範鐸には京都府出土のものがあり、加茂岩倉遺跡の同範鐸には桜ヶ丘遺跡や鳥取県・岡山県・徳島県などのものが含まれることから近畿地方から中国・四国地方までの交流を示す資料であることは間違いありません。



国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈(神戸市立博物館蔵)

(4) 青銅器の鑄造

青銅器がいつから日本で鑄造され始めたかについては、いろいろな考え方がありますが、一般的には弥生時代前期の終わり頃から中期の初め頃(2400-2300年前)にかけてのことだと考えられます。近畿地方においても、拠点的な集落で鑄造に関連する遺物が見つっています。大阪府東奈良遺跡や奈良県唐古・鍵遺跡では複数の鑄型だけではなく、鑄造に関わる土製品も多く見つっています。また、東奈良遺跡の鑄型で鑄造された銅鐸が豊岡市の気比地区から出土しており、近畿中央部と日本海側の交流を考える上で興味深いものです。なお、気比地区では複数の銅鐸が出土し、その中には加茂岩倉遺跡の同範鐸が含まれ、これも交流を示すものといえるでしょう。兵庫県内でも銅鐸や武器形青銅器の鑄型が播磨と摂津で見つっており、今後青銅器を鑄造した遺跡が明確になることが期待されます。

(5) 聞く銅鐸から見る銅鐸へ

今回の展示で取り上げている銅鐸は松帆銅鐸のような小型の「聞く銅鐸」ですが、弥生時代後期には大型の「見る銅鐸」に変化します。

兵庫県内でも「聞く銅鐸」に比べて数は少なくなりますが、川西市栄根銅鐸のような「見る銅鐸」が見つっています。「見る銅鐸」には弥生時代後期後半頃(1700年前)の土器と一緒に、破碎された状態で見つかったものも含まれていることから、この時期に、銅鐸のマツリが終焉を迎えたことを示しています。

(学芸課 鐵 英記)

《開館10周年記念シンポジウム》

「松帆銅鐸と淡路の青銅器をめぐる」

コーディネーター

石野博信(当館名誉館長)

パネラー

難波洋三(奈良文化財研究所 客員研究員)

福永伸哉(大阪大学大学院 教授)

森岡秀人(関西大学大学院 非常勤講師)

吉田 広(愛媛大学 准教授)

和田晴吾(当館館長)

会場：子午線ホール

(明石市東仲ノ町6番1号 アスピア明石北館9階)

日 時：平成29年11月11日(土) 10:00~16:00

定 員：250名 ※応募多数の場合は抽選となります

※申込み：往復はがきで当館まで 10月13日(金)必着

詳細はホームページ・チラシでご確認ください

☎079-437-5562(学芸課直通)

《講演会・イベント情報》

☆講演会

会 場：当館講堂

時 間：13:30~15:00

定 員：120名 参加費：無料

●10月7日(土)

「松帆銅鐸の発見」

定松佳重(南あわじ市教育委員会)

●10月14日(土)

「出雲の青銅器 ―荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡を中心に―」
増田浩太(島根県埋蔵文化財調査センター)

●10月21日(土)

「桜ヶ丘銅鐸・銅戈について」

山本雅和(神戸市立博物館)

【展示解説】

日 時：会期中の日曜日 13:30~14:00 ※要観覧券

【体験イベント】

①遺跡ウォーク「六甲山麓の青銅器出土地を巡る」

内 容：六甲山麓の青銅器に関連する遺跡群を巡るウォーク

日 時：平成29年11月18日(土) 10:00~15:30

定 員：20名 参加費：200円

要予約 9月18日(月・祝)~受付開始

☎079-437-5564(学習支援課直通)

②銅剣形ペーパーウェイトをつくろう!

内 容：低温で融解する合金を使い、出土した銅剣をモデルにした型を使ってペーパーウェイトを作ります。

日 時：平成29年11月25日(土) 10:00~15:30

定 員：16名 参加費：1,000円

要予約 9月26日(火)~受付開始

☎079-437-5564(学習支援課直通)

【紙芝居】

オリジナル紙芝居「これはあなたの剣ですか」ほか

日 時：会期中の日曜日および10月7日(土)・

14日(土)・21日(土) 13:00~13:20

場 所：メインホール

【他館での関連展示】

○滋賀県立安土城考古博物館

開館25周年記念・平成29年秋季特別展

「青銅の鐸と武器 ―近江の弥生時代とその周辺―」

会 期：平成29年10月21日(土)~12月3日(日)

休館日：月曜日 入館料：大人890円 他

問い合わせ先：☎0748-46-2424

○茨木市立文化財資料館

第53回茨木市教育文化月間

第34回茨木市立文化財資料

テーマ展

「銅鐸をつくった人々―東奈良遺跡の工人集団」

会 期：平成29年9月30日(土)~11月27日(月)

休館日：火曜日 入館料：無料

問い合わせ先：☎072-634-3433

兵庫県政150周年記念事業・加西分館「古代鏡展示館」開館記念展

三彩の俑たち 唐王朝のたたずまい

期間：平成29年9月7日(木)～平成30年3月13日(火)

場所：加西分館「古代鏡展示館」(加西市豊倉町飯森1282-1)

古代中国鏡で知られる千石コレクションには、鏡以外にも貴重な作品が含まれています。今回は、唐三彩の俑などを通して唐の時代の繁栄をご覧ください。

三彩とは、成形・焼成の後、白色の素地に複数の釉薬を施し、再び900℃前後の温度で焼成した陶器です。7世紀後半の唐の時代に成立したものを唐三彩と呼び、主に明器(死者のための副葬品)として用いられました。

中国では、死者は冥界で現世と同じ生活を続けるものと信じられていました。墓は被葬者にとって冥界の宮殿や住まいであり、生活に必要な品々を模した陶製品や被葬者に仕える官吏や武人などを模した俑が副葬されました。俑は、戦国時代(前475年～前221年)以降に副葬されるようになり、特に秦始皇帝陵の兵馬俑がよく知られています。唐の時代には、服飾が釉薬により明るく華やかに表現された三彩俑が作られます。また、墳墓を邪気から守護する武人俑は、やがて躍動的な天王俑へと姿を変えます。写実的な姿は、唐の時代の装束や生活の様子を今日に伝えてくれます。

造形された2頭の動物、馬と駱駝は唐の時代の西域との交流を物語ります。馬は人間と密接に関係する動物であり、古来より交通や軍事などに利用されました。盛唐の時代(8世紀初頭～半ば)には貴族の間で名馬を愛好するのがブームとなり、中央アジアから体躯に優れた良馬が数多くもたらされました。また、西方から伝わったペガサスのイメージが神仙思想と結びつき、仙界や天界を翔ける天馬として鏡のモチーフにもなっています。

駱駝は「砂漠の舟」とも言われ、シルクロードの通商において欠くことのできない運搬手段でした。

陶製の馬や駱駝は、シルクロードを往来した西域の民(胡人)の俑を伴う例があることから、西域から貴重な品々やエキゾチックな文化をもたらし動物として、貴族にとって関心が高かったのでしょう。

華やかな唐三彩も、唐王朝の勢力に陰りが見え始めた8世紀半ば以降には衰退します。百年に満たない唐三彩の盛期は、鏡の優品が数多く制作された時期とも一致します。様々なモチーフの唐鏡とともに唐の時代の雰囲気を感じながらご覧下さい。

(加西分館 長濱誠司)



三彩文官俑(唐)



褐釉馬(唐)

兵庫県政150周年記念事業・開館10周年記念企画展

「ひょうごの遺跡2009～2018」

— 調査研究速報 —

期間：平成30年1月20日(土)～3月25日(日)

兵庫県が実施した発掘調査と出土品整理から、最新の調査研究成果を一堂に公開する展覧会です。

当館が開館し10周年を迎えた今年度は、過去10年間の出土品整理事業により169冊の報告書にまとめられた212遺跡の発掘調査報告の中から、明らかになった研究成果と、平成29年度に発掘調査を行った遺跡の中から、選りすぐりの資料を展示します。その中からいくつか見どころを紹介しましょう。

池田古墳(朝来市)は5世紀前葉では山陰地方最大の前方後円墳で、多数の家形埴輪・水鳥形埴輪・円筒埴輪などで古墳が飾られていたことが判りました。墳丘の形や出土品から畿内中枢部の大王クラス古墳との共通性が認められ、ヤマト王権との関係も明らかになりました。地方の王クラスの重要な資料です。

九蔵遺跡(南あわじ市)では奈良～平安時代の掘立柱建物跡24棟のほか、塩づくりに関する遺構が見つかりました。出土品には製塩土器、須恵器、土師器のほか和同開珎(銀銭)が出土しました。

この銀銭は全国に33遺跡48例しか知られておらず、兵庫県では発掘調査で初めて出土した貴重なもので、中央との関係を示す象徴的な遺物です。淡路国は天皇へ食材を送った御食国^{みけつくに}として知られていることから、この地は都に塩を送った「三原海女」の本拠地の可能性がある遺跡です。

豆腐町遺跡(姫路市)では1888(明治21)年に開業した山陽鉄道の機関車の方向転換をするための初代転車台が発掘されました。転車台坑の側壁は内径が12.3mになるように円形に組まれ、中央には花崗岩製の支承台が設置されていました。周辺からは1900年代初頭のレールや汽車土瓶なども出土しました。我が国の近代交通や鉄道の歴史を考える上で貴重な資料です。

これら10年間の考古学研究により明らかになった“ひょうごの遺跡”と今年度の調査成果を一堂に公開しますのでご期待下さい。

(学芸課 深井明比古)



池田古墳水鳥形埴輪



九蔵遺跡和同開珎銀銭



豆腐町遺跡初代転車台

兵庫県立考古博物館ふるさと発掘展・朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」特別展

(日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」認定記念)

A・SA・GOのカラーロード ～ひとの道・モノの道～

期間：平成29年7月8日(土)～10月9日(月・祝)

場所：古代あさご館(北近畿豊岡自動車道山東PA隣)

当館は、県内各地の歴史系博物館・資料館・埋蔵文化財センターとのネットワーク化を推進するために、「ふるさと発掘展」として総合的な埋蔵文化財活用事業を毎年実施しています。今年度は、朝来市域における「道」をテーマとした特別展を朝来市埋蔵文化財センターと共同開催することとしました。

「道」は朝来市の歴史を特徴づけるキーワードです。朝来市域には但馬で唯一、古代官道や駅家の痕跡が確認されています。中世においては、但馬守護職・山

名氏の拠点であった出石と生野銀山を結ぶ道があり、その要衝に竹田城が築られました。近代では、生野鉱山を中心とする但馬南部の鉱山と姫路市の飾磨津物揚場を結ぶ生野鉱山寮馬車道が日本の近代産業の発展を支える動脈の一つとなったのです。この道が今年4月に「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」として日本遺産に認定されたことは、あらためて「道」が持つ歴史的・文化的な役割を見直すことにつながったのではないのでしょうか。

本展では、「道」をテーマに朝来市域の歴史を時系列に沿って多角的な視点で捉えます。地中や地上に残された「構造物としての道」とともに、人々が歩んだ「人生の選択肢としての道」についても紹介します。

(学芸員 松井良祐)



柴遺跡出土木簡

《主な出品資料》

柴遺跡出土資料(木簡・木製祭祀具等)
兵庫県立考古博物館蔵
釣坂遺跡出土資料(朝来市指定文化財)
朝来市埋蔵文化財センター蔵
羽柴秀吉制札(朝来市指定文化財)
法宝寺蔵
灰吹銀(朝来市指定文化財)
個人蔵
但州生野銀山絵巻(朝来市指定文化財)
生野書院蔵



但州生野銀山絵巻(部分)

古代体験メニューの紹介

「赤米で田んぼアート」

— 古代体験講座「赤米をつくろう！」 —

●考古博10周年を田んぼアートで！

例年、考古博物館では、赤米づくりを行っており、今年も6月上旬に2日に分けて田植えを行いました。今年は考古博10周年を祝して、赤米で田圃^{たんぼ}アートの実施案がひょうご考古楽倶楽部から提案されました。

6月1日には蓮池小学校4年生120名が、田植え体験学習を行いました。

畦^{あぜ}で靴を脱ぎ、裸足になって、いざ田圃の中へ。泥のぬるっとする感覚や、脚をとられて動けないことに悲鳴を上げていましたが、稲の持ち方や田植えの仕方、笛の合図の説明には静かに耳を傾けていました。

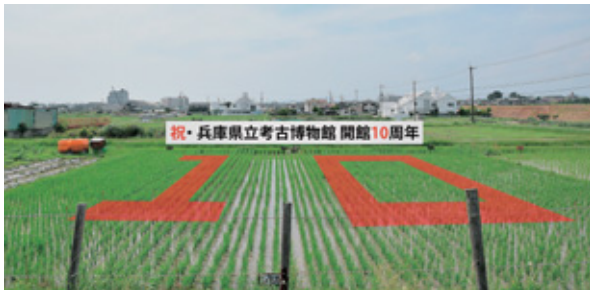
当館ボランティアとトライやるウィークの中学生のサポートを受け、笛の音に合わせて一斉に苗を植えていきます。今年は赤米で「10」を描くため、手順が多くて大変。最初は、自分の前を植えるだけで手一杯でしたが、後半には苗の並びを気にしたり、他の子のお手伝いをしたりと余裕も出て、楽しく田植えを行いました。



6月4日の田植えの様子

参加者は「お米ってこんな泥の中でできるんだね」と、普段食べているものがどうやってつくられているのかを身をもって感じていました。体験を終えた後は、ひょうご考古楽倶楽部が用意した白米のおにぎりや、土器で炊いた赤米100%のおにぎりを食べ、今植えたお米がご飯になることを体感していました。

(学習支援課 足立 望)



9月10日観察会での田圃アートの予想図

●赤米をつくろう！「田植え」

6月4日は、古代体験「赤米をつくろう！」「田植え」として一般公募を行い、70人(付き添い含めて100人近く)の参加者に加え、ひょうご考古楽倶楽部、ボランティア38名、県立農業高校の先生・生徒32名の協力を得ました。

古代体験講座「赤米をつくろう！」では下記のイベントを予定しております。ぜひご参加ください。

●「赤米をつくろう!」～観察会&石包丁づくり～

9月10日(日) 10:00～15:30

定員：20名 対象：小学4年生～

料金：300円

●「赤米をつくろう!」～稲刈り～

10月15日(日) 10:00～12:00

定員：30名 対象：5歳～

料金：200円

いずれも予約制。実施の2ヶ月前から受付(受付開始日が休館日の場合は翌日から)。

学習支援課までお電話ください。

☎079-437-5564(学習支援課直通)

イベント

予約不要

1/2 火	お正月イベント 考古博カルタ大会 みんなが書いたカルタで、カルタ取りしようよ！ 時間 13:30～14:30 受付 12:30～ 定員 30名 料金 無料 対象 小学生以下
3/21 水祝	考古博であそぼう 春の一日、“こうこはく”で古代のあそびを楽しもう！ 時間 12:30～15:30 料金 無料 対象 どなたでも
9/10 日	バックヤード見学ツアー
3/28 水	普段は見る事ができない博物館の舞台裏を案内します。 時間 14:00～14:40 受付 13:30～ 定員 15名 料金 要観覧券 対象 どなたでも
学芸員によるミニ講座 考古博の常設展示の一つを詳しく紹介します 9/10日・9/17日・9/24日・10/1日 13:30～14:00【要観覧券】	

講演会

13:30～15:00(12:50 開場) 当館講堂

※混雑時は開場時間を早める場合があります。定員 120名【無料】

秋の特別展	10/7 土	松帆銅鐸の発見 定松佳重(南あわじ市教育委員会 課長補佐)
	10/14 土	出雲の青銅器―荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡を中心に― 増田浩太(島根県埋蔵文化財調査センター 企画員)
	10/21 土	桜ヶ丘銅鐸・銅戈について 山本雅和(神戸市立博物館 学芸係長)
兵庫考古学研究最前線 2017	9/23 土	装飾古墳と高松塚古墳 和田晴吾(当館館長)
	1/6 土	宗像・沖ノ島祭祀とヤマト 石野博信(当館名誉館長)
	2/3 土	丹後と山陰との交流―新温泉町対田清水谷弥生墳墓群― 上田健太郎(当館学芸員)
	2/17 土	ここまでわかった大市駅家 篠宮 正(当館学芸員)
	3/10 土	列島南西部の旧石器文化―兵庫県での調査を踏まえて― 久保弘幸((公財)兵庫県まちづくり技術センター 副課長)
	3/11 日	発掘調査速報会 13:30～16:00(12:50 より整理券配布) (公財)兵庫県まちづくり技術センターの調査担当者が最新の発掘成果を速報 当館講堂 定員 120名 【無料】

- 「特別展展示解説」は特別展開催期間中の日曜日に実施。13:30～14:00※要観覧券
- 「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:30～15:30
- イベントについての詳細情報は当館ホームページやチラシでご確認ください。

体験講座

要予約

TEL 079-437-5564【学習支援課】

9/10 日	赤米をつくろう！～観察会&石包丁づくり～ 時間 10:00～15:30 定員 20名 料金 300円 対象 小4～ 受付 7/11(火)～
9/24 日	古代の技に学ぶかごづくり～箕の菓子器づくり～ 大人向け 時間 10:00～15:30 定員 10名 料金 500円 対象 高校生～ 受付 7/25(火)～
10/14 土	組紐でネックレス(ラリエット)をつくろう！ 大人向け 時間 10:00～15:30 定員 10名 料金 800円 対象 高校生～ 受付 8/14(月)～
10/15 日	赤米をつくろう！～稲刈り～ 時間 10:00～12:00 定員 30名 料金 200円 対象 5歳～ 受付 8/15(火)～ 締切 10/1(日)
11/18 土	遺跡ウォーク 六甲山麓の青銅器出土地を巡る 大人向け 時間 10:00～15:30 定員 20名 料金 200円 対象 どなたでも 受付 9/18(月祝)～ 締切 11/4(土)
11/25 土	銅剣形ペーパーウエイトをつくろう！ 時間 10:00～15:30 定員 16名 料金 1,000円 対象 小4～ 受付 9/26(火)～
12/3 日	古代文字でカレンダーをつくろう！ 時間 13:30～15:30 定員 30名 料金 400円 対象 どなたでも 受付 10/3(火)～
1/21 日	縄文の神秘！土偶をつくろう 時間 10:00～15:30 定員 15名 料金 1,000円 対象 小4～ 受付 11/21(火)～
1/28 日	節分～鬼瓦のお面で鬼退治～ 時間 13:30～15:30 定員 20名 料金 無料 対象 どなたでも 受付 11/28(火)～
2/4 日	ガラス勾玉でアクセサリをつくろう！ 大人向け 時間 10:00～15:30 定員 12名 料金 1,000円 対象 高校生～ 受付 12/5(火)～
2/18 日	古代の技に学ぶかごづくり～天然素材の小物入れ～ 大人向け 時間 10:00～12:00 定員 6名 料金 500円 対象 高校生～ 受付 1/2(火)～

11/11 土 開館 10 周年記念シンポジウム

松帆銅鐸と淡路の青銅器をめぐる

コーディネーター 石野博信(当館名誉館長)
パネラー 難波洋三(奈良文化財研究所 客員研究員)
福永伸哉(大阪大学大学院 教授)
森岡秀人(関西大学大学院 非常勤講師)
吉田 広(愛媛大学 准教授)
和田晴吾(当館館長)

時 間	10:00～16:00
定 員	250名 ※応募多数の場合は抽選となります
会 場	子午線ホール 明石市東仲ノ町6番1号(アスパia明石北館9階)
申込み方法	詳細はホームページ・チラシでご確認ください。 お問い合わせは学芸課(TEL: 079-437-5562)まで。 締切 10/13(金)必着

兵庫県立考古博物館NEWS vol.20 2017 Autumn-Winter

発行年月日 平成 29 年 8 月 31 日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
http://www.hyogo-koukohaku.jp/

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西I.C.から約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください(普通車 1回200円)
- 休館日／月曜日(祝休日の場合は翌平日)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド

兵庫県立考古博物館



blog

